

# ベスト・サイクリングプロジェクト2025 最終審査3組エントリーシート

---

令和8年2月27日  
北海道サイクルルート連携協議会アドバイザー会議



- No.1 **きた北海道**  
**サイクルツーリズム連絡会議**  
『インバウンド誘客に向けた  
2か年(令和6年・7年)の取組』
- No.3 **くしろサイクルツーリズム推進協議会**  
『「つながる道、ひろがる魅力」  
—基幹と地域をつなぐ地域ルート構築—』
- No.6 **オホーツクルート協議会**  
『工事現場トイレの活用』

# 最終審査プロジェクト No.1 きた北海道サイクルツーリズム連絡会議

🚲 ベスト・サイクリングプロジェクト2025

エントリー様式

別紙 1

## プロジェクト名称 インバウンド誘客に向けた2か年（令和6年・7年）の取組

## ルート協議会名称 きた北海道サイクルツーリズム連絡会議

### (1) プロジェクト概要

#### ① 活動目的・目標

きた北海道ルートのナショナルサイクルルートへの登録を目指す取組の一環として、サイクルツーリズム先進地への視察やプロモーションを通じて、インバウンドの誘客を目指す。

#### 具体的な活動内容等

② 具体的な活動内容	③ 活動期間	④ 活動場所
サイクルツーリズムの先進地である台湾から有識者を招へいし、きた北海道ルートを視察いただくとともに、インバウンド誘客に向けた助言を受けた。	令和6年 9月24日～ 28日	きた北海道ルート内 (主に利尻島、稚内市、 名寄市、旭川市)
サイクルツーリズムの先進地である台湾を視察し、きた北海道ルートにおけるサイクルツアーやガイド、サポートカー等の受入環境整備について学んだ。	令和7年 2月13日～ 17日	台湾・台南
シンガポールのサイクルツアー会社と連携し、Teppen Ride 2025にシンガポールや香港からの5名のサイクリストを一般参加者として受け入れた。	令和7年 9月20日～ 22日	きた北海道ルート（旭川～名寄～中川～稚内）

### (2) プロジェクト活動体制

きた北海道サイクルツーリズム連絡会議として実施し、主に以下の体制にて取り組みを展開した。

団体名	台湾/有識者 ルート視察	台湾 現地視察	Teppen Ride 2025
きた北海道ルート連絡会議	宗谷シニツカバ イウェイ	●	きた北海道ルート連絡会議 主催
	稚内観光協会	●	
	天塩川シニツカバ イウェイ	●	
	なよろ観光まちづくり協会	●	
	稚内開発建設部	●	
その他	旭川開発建設部	●	協力
	シニツカバ イウェイ支援センター	●	
	北海道開発技術センター	●	

### (3) PRポイント

#### ① 創意工夫した点

台湾の有識者は、富士山周辺のサイクルツアーなど、日本での台湾旅行者向けツアー実績がある方を招へい。招へいた方に、きた北海道ルートの現状を踏まえた上で台湾視察の企画・行程を組んでもらった。結果については、関わった方のみならず、きた北海道ルート関係者に広く共有するため、報告会等を開催した。

#### ② 苦労のあった点

有識者招へいや台湾現地視察は、参加者や日程、行程等の事前調整に苦労した。現時点でインバウンド受入れ環境整備が不足している点もあるため、Teppen Rideへのインバウンド参加では、食事対応やコミュニケーションの面で苦労した。

#### ③ 活動による効果

シンガポールからのインバウンドを誘客することができ、それがきっかけとなり、インバウンド誘客に向けた機運が高まった。

#### ④ 今後の課題・活動予定

インバウンド向けの受入れ環境の充実、プロモーションの展開を進め、TEPPEN RIDEを含めインバウンド誘客を引き続き推進する。

台湾/有識者ルート視察	台湾現地視察	Teppen Ride 2025
		
利尻島の自転車道“彩るロード”を試走頂いた。	台湾・台南では10名が視察に参加し、3日間のガイドツアーを体験した。	シンガポールや香港から全5名（うち、添乗1名）の方が参加した。
		
名寄では河川敷の他、北国記念館も視察頂いた。	台湾らしい風景(バイナッブル畑)を活かしたコースが設定されていた。	日本人の参加者を含め、12名でTeppen Rideを開催した。

プロジェクト名称 「つながる道、ひろがる魅力」－基幹と地域をつなぐ地域ルート構築－  
 ルート協議会名称 くしろサイクルツーリズム推進協議会

(1) プロジェクト概要

① 活動目的・目標

基幹ルート（阿寒・摩周・釧路湿原）と連携し、地域特有の魅力を経験できる周遊ルートの整備を図る。特に初級者を含む多様なサイクリストにターゲットを置き、地域の回遊性と滞在時間の向上を目指す。

② 具体的な活動内容

協議会ワークショップに地域住民や地域のサイクリスト事業者等から参画いただき、候補ルートとして抽出後、試走会により距離・高低差・補給・危険箇所等を検証、意見を反映して地域ルートを確定する。

③ 活動期間

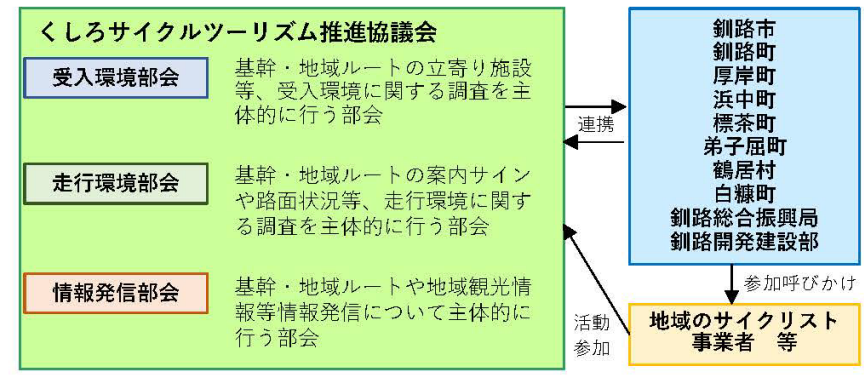
- 令和5年度：弟子屈町地域ルート造成ワークショップ（4月18日、10月10日）  
試走会の実施（11月6日）
- 令和6年度：鶴居村地域ルート造成ワークショップ（7月18日）  
試走会の実施（10月10日）
- 令和7年度：標茶町地域ルート造成ワークショップ（8月19日）  
試走会の実施（9月24日）

④ 活動場所

弟子屈町、鶴居村、標茶町

(2) プロジェクト活動体制

活動体制を以下に示す。



(3) PRポイント

① 創意工夫した点

- 地域ルート確定時の参画メンバー以外に、一般公募を集い試走会を実施。
- 試走会で課題箇所等を把握、それを踏まえて、ルート利用者目線により近い地域ルートとして確定することができた。

② 苦勞のあった点

- ワークショップでは、異なる視点から多様な意見を交換し、オンライン等を活用して別途打合せを重ね、調整を行った。

③ 活動による効果

- 地域ルートのマップを作成し、協議会のWebサイトやゲートウェイ、道の駅などでPR活動を実施。
- 結果として、造成した地域ルートを活用した地域のサイクルイベントの新たな創出に繋がった。

④ 今後の課題・活動予定

- 当協議会に係る8市町村のうち、4市町村が地域ルートを造成。残り市町村においても地域ルート造成を目指し協議を重ねていく。



標茶町地域ルート造成ワークショップ



標茶町地域ルート試走会 塘路駅ルート



標茶町地域ルート試走会 標茶駅ルート



試走会後の意見交換会

**プロジェクト名称** 工事現場トイレの活用

**ルート協議会名称** オホーツクルート協議会

**(1)プロジェクト概要**

**①活動目的・目標**

➤オホーツク地域ではトイレが設置されていない区間が多く、サイクリストや「北海道東トレイル」などを歩く旅行者にとって、安心・清潔面での課題となっている。この課題に対応するため、工事受注者と連携し、令和7年度から工事現場における清潔で快適な「快適トイレ」の提供を開始した。（安心・清潔なアクティビティ観光の推進の取組）

**②具体的な活動内容**

➤網走建設業協会との官民共創の取り組みとして、網走開発建設部発注の工事受注者と連携し実施。工事受注者のご厚意によりサイクルラックや自転車工具、休憩場所などを提供しているところもある。快適トイレや工具等の設置状況は開建HPでマップを公表している。

**③活動期間**

➤5月下旬～11月末（令和7年度から開始）  
※来年度以降の活動期間は未定

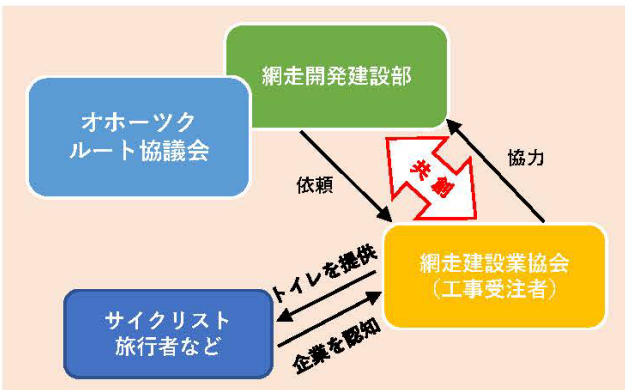


網走開発建設部HP  
「安心・清潔なアクティビティ  
観光の推進の取組」

**④活動場所**

➤網走開発建設部管内

**(2)プロジェクト活動体制**



**(3)PRポイント**

**①創意工夫した点**

- 公衆トイレがない場所においても、新規整備に頼らず、官民共創により工事現場のトイレを活用することで、既存資源を生かしながらサイクリストの課題解決を図っている。
- HPでの情報発信に加え、地図にGoogleマップを用いることで、現在地から最短ルートを検索できるようにした。
- 共通デザインの看板やのぼりとは別に、企業PR看板の設置を可能とすることで、企業側にもメリットがあるプロジェクトとしている。

**②苦労のあった点**

- 事故を防止するため、来客者用の駐輪スペースの確保や、一般利用者にも分かりやすい案内（看板やのぼり）の設置が必要なこと。

**③活動による効果**

- 従来よりトイレの箇所が増え、安心してサイクリングを楽しむことができる。
- これまでツアーに組み込みにくかった箇所を組み込みやすくなる。
- 全道展開に向けて調整中であり、北海道全体のサイクリスト受入環境向上に繋がる。

**④今後の課題・活動予定**

- 看板・のぼりの制作費は事業者負担となっているため、事業者が本プロジェクトに参加するメリットをさらに高めていくことが必要。
- ルート協議会から工具や自転車用品を扱う自動販売機の提供など、協賛について検討予定。
- 本プロジェクトの認知度を高めるため、イベント等での取組紹介を積極的に行っていく。



快適トイレの設置状況マップ



快適トイレと現地看板



イベントでの取組PR